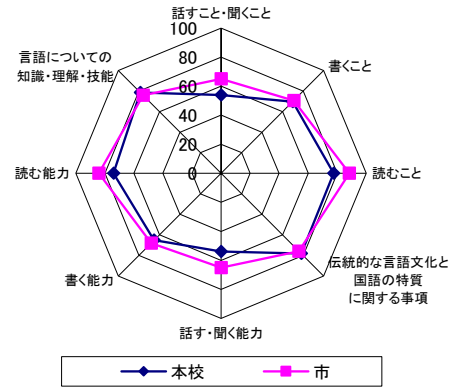


宇都宮市立清原北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	54.0	65.0	62.9
	書くこと	69.8	70.9	71.3
	読むこと	77.6	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.2	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	54.0	65.0	62.9
	書く能力	65.2	68.0	68.0
	読む能力	74.1	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	78.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を11ポイント下回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題において、話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く問題の正答率は、76%と市の平均とほぼ同じだった。司会者の役割を理解し、計画的な話し合いを行うための司会者の発言を記述する問題の正答率は10%に満たず、無回答も学級の1／3を占めていた。	・話し合い活動を充実させ、全ての児童に司会者等の役割を経験させるなどの機会を設ける。また、聞く力・話す力の育成を図り、内容を整理しながら聞く力や、話の展開に沿って自分の考えを述べる力を身に付けさせる。 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
書くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○記事を読んで意見文を書く問題の正答率は、市の平均より4ポイント高かった。 ○作文においては、「2段階構成で書く」などの条件をきちんと満たして書けていた。 ●「指定された長さで文章を書く」という条件を満たしていたのは66%と、市の平均より8ポイント低かった。	・4月に比べ、条件を意識して書くことができるようになってきた。引き続き内容的な条件を満たして文章を書く指導を行うとともに、日記や作文指導を行う。 ・資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す活動は、社会など他教科でも取り組み、定着を図る。
読むこと	平均正答率は、市の平均を11ポイント下回っている。 ○●物語文においては、登場人物の心情を読み取る問題の正答率は95%と、市の平均を3ポイント上回った。しかし、文章の表現の工夫や、場面描写と登場人物の心情を読み取る問題については、市の平均を10ポイント以上下回っていた。 ●説明文においては、理由を読み取る問題については、90%の正答率だったが、筆者の考えを読み取る問題においては、66%だった。	・物語文では、授業において情景描写と人物の心情の関連に気付かせたり、語彙を増やすことでより深い心情表現を理解したりさせる。また、音読を通して登場人物の心情を理解させるなど、活動を工夫する。 ・説明文では、文章の要点をまとめる活動に取り組むとともに、筆者の考えが記述されている部分を丁寧におさえ、筆者の意図を正確に捉えられるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均を3ポイント上回っている。 ○5年生の漢字の書きの正答率は、全て市の平均を上回っていた。また三字熟語についても、正答率が95%と非常に高かった。 ●国語辞典の使い方に関する問題において、辞書に載っている順番についての正答率は76%と、市の平均を14ポイント下回った。	・漢字の学習については、引き続き家庭学習や朝の学習の時間などで計画的に取り組ませていく。 ・単元の導入などで、文章中の分からない言葉を、辞書で調べる時間を計画的に位置づける。また、他教科においても辞書引きを習慣づけて語彙力が高まるようにする。